

障害とともに幸せに暮らすための 「総合知」の形成に向けて

—意思決定支援をめぐる理念と実態の検討—

当事者×研究者(法学×社会福祉学×教育学)、

ともに、意思決定支援を考える。

障害者権利条約の批准から10年が経つ日本では、権利条約に記されている、意思決定支援原則—誰もが自ら意思決定することができるよう、必要な支援を可能な限り尽くすこと—の実現が、求められています。

本シンポジウムでは、法学・社会福祉学・教育学を専門領域とする研究者と、つくば市で活動する当事者が、障害者の意思決定支援をめぐる理念と実態について、多角的に検討を行い、病や障害とともに生きる人々も「幸せ」に暮らすことのできる社会の実現に向けて、「総合知」を構築することを目指します。

◆登壇者

橋田 慈子 (社会教育学) 筑波大学人間系教育学域 特任研究員

「知的障害者による『意思決定』をめぐる闘い —セルフアドボカシー運動を事例として」

麦倉 泰子 (共生社会論) 関東学院大学社会学部 教授

「『親亡き後』のその先へ —イギリスと日本のパーソナルアシスタンス」

大村 美保 (社会福祉学) 筑波大学人間系障害科学域 助教

「意思決定支援・成年後見・最善の利益：権利擁護の『現在』を読み解く」

◆コメンテーター

川島 映利奈

つくば自立生活センター・ほにやら 代表

川田 琢之 (社会法学) 筑波大学ビジネスサイエンス系 教授

直井 義典 (民事法学) 筑波大学ビジネスサイエンス系 教授

八重田 淳 (社会福祉学) 筑波大学人間系障害科学域 教授

山岸 久晃 (民事法学) 筑波大学ビジネスサイエンス系 特任助教・弁護士

◆司会 小牧 叡司 筑波大学人間系リサーチアドミニストレーター

参加申込はこちら

3月16日 (木) 13:00-15:50

@筑波大学東京キャンパス5階教室&オンライン

※対面での参加可能人数に上限がございます。

対面参加を希望の方は、お早めにお申込み下さい。



お問い合わせ

筑波大学人間系リサーチラウンジ

research@human.tsukubai.ac.jp

※事前登録必須 (先着順)

本企画は、筑波大学の「令和4年度 幸多き人生100年時代を創る『知』活用プログラム」の助成を受けて実施します。